



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No.5

2008.7.30 (No.2512)

第2560地区ガバナー／馬場信彦
 会長／中村和彦
 会長エレクト／菊池 渉(クラブ奉仕A)
 副会長／樺山 仁(クラブ奉仕B)
 幹事／石月良典
 S A A／明田川賢一
 会計／杉山 幸英

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpst.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:59名中42名
 ■先々週出席率:82.14%

【ゲスト】

・コンチネンタル航空 新潟支店
 支店長 坂井加奈子 様

【先週のメイクアップ】

[7.24] 燕RCへ

・加藤紋次郎さん

[7.28] 三條南RCへ

・五十嵐晋三さん、五十嵐昭一さん
 ・菊池 渉さん、山田富義さん
 ・斎藤弘文さん、丸山行彦さん
 ・加藤紋次郎さん、荻根澤隆雄さん
 ・五十嵐浩さん、西川文夫さん
 ・渡邊喜彦さん

[7.29] 三條北RCへ

・武田真二さん、荻根澤隆雄さん
 ・西川文夫さん、渡邊喜彦さん



「夢をかたちに」

2008～2009年度国際ロータリーのテーマ



古代蓮

会長挨拶

中村和彦 会長

石油の話



全国では、ガソリンスタンド52,000か所
あります。

今、セルフサービスのガソリンスタンド
が出てきていますが、自分でお金を
入れて油を詰めるということで、
一切サービスはありません。そう
いうスタンドが1998年4月
から解禁になり、以来52,000軒
のうち、すでに1,200軒以上の
スタンドがセルフ化されています。

イギリスでは約70%、アメリカ
やドイツでは90%を超える
スタンドがセルフですから、
日本もこれからセルフ化が進
んでいくのではないでしょう
か。

価格の問題で知っておいて
いただきたいのは、石油価格
100円のうち、皆さんが税金
をどれだけ負担しているか
ということです。

まず、原油が入ってきますと
原油関税、石油税はリッター
当たり2.21円です。それに、
一般的にガソリン税といわれ
る揮発油税と地方道路税が
53.80円で、合わせて56.01
円を皆さんが100円の中
でとりあえず税金として負
担しています。

ガソリン代リッター100円
のうち、56円が税金です
から中身は44円です。な
お、この44円のうち20
円が原油の価格で、残り
に精製コスト、流通コス
ト、マージンがすべて入
っています。

さらに、消費税を加えた
105円のうち61.01円
が税金ということになり
ます。

2000年度の第一次エネ
ルギーに石油が占める割
合が51.8%

でしたが、経済産業省が長期エネルギーの需給見通しということで、2010年度には45%になるだろうと発表しました。

21世紀に入っても、まだ第一次エネルギーは石油に依存している状態にあるということです。

幹事報告

石月良典 幹事

◎新潟万代RCより第8回ライラ研修開催のご案内が届いております。

と き 9月27日(土)～28日(日) 1泊2日
と ころ 学生総合プラザ「STEP」(新潟市)
参 加 者 ロータリアン1名以上
研修生2名以上
締め切り 8月25日(月)

ニコニコBOX

中村和彦さん

先週の納涼例会親睦の皆さん、ご苦勞様でした。
コンチネンタル航空の坂井様、卓話ありがとうございます。

石月良典さん

県央工業、おめでとうございます。
コンチネンタル航空坂井支店長様、卓話ありがとうございます。

山田富義さん

先週の納涼例会、親睦委員会の配慮ありがとうございます。
新潟県央工業高校の甲子園出場の支援金、御協力感謝申し上げます。

杉山幸英さん

県央工業野球部甲子園出場支援金を多額戴きまして有難う御座いました。社会奉仕委員会より御協力感謝致します。

浅野金治さん

昨晚、スズメバチに頭を刺されて、急いで日戸先生より診てもらい、一命を取り留めました。ハチの針より注射の針がやさしく感じました。

松永一義さん

納涼例会、多数のご参加ありがとうございます。
県央工業おめでとう。

日戸平太さん

先週の夜例会、親睦委員会ご苦勞様でした。

野崎喜一郎さん

21日の海の日、寺泊でクルーザー体験会を行いました。子ども12人を含む43人が参加して、一日楽しんでいただきました。渡辺稔さん、ありがとうございました。

高森章仁さん

甲子園出場、まだ夢のようです。

熊倉昌平さん

新潟県央工業高校

「夢をかたちに」RI会長テーマ。

米山智哉さん、丸山行彦さん、船越正夫さん、若槻八十彦さん、石塚欣司さん

コンチネンタル航空坂井様、卓話ありがとうございます。

外山雅也さん、近藤雄介さん、樺山 仁さん、会田二郎さん、小越憲泰さん、石倉政雄さん、

県央工業高校の甲子園出場を記念して。

川瀬康裕さん

都合により早退させていただきます。

7月30日分 ￥40,000

今年度累計 ￥245,000

8月のお祝い

◎会員誕生祝

23日 米山智哉さん
30日 坂井庚司さん

◎夫人誕生祝

5日 小宮智恵美さん (好智さん)
7日 五十嵐きみ子さん (昭一さん)
8日 成田久美子さん (秀雄さん)
10日 石月道子さん (良典さん)
14日 近藤律子さん (雄介さん)
16日 阿部香苗さん (吉弘さん)
18日 石橋久子さん (育於さん)
20日 五十嵐史子さん (寿一さん)
27日 佐野美知子さん (勝榮さん)
28日 日戸英子さん (平太さん)

◎結婚記念

28日 坂上 昭さん (洋子さん)



卓 話



コンチネンタル航空新潟支店 支店長 坂井加奈子 様

ただいま、ご紹介に預かりました、コンチネンタル航空新潟営業支店の坂井と申します。本日は、このような素晴らしい機会を頂きまして心より感謝申し上げます。

そして、非常に明るいニュースということで、新潟県立新潟県央工業高等学校の甲子園出場、皆さんと一緒に、まずは一回戦突破ができるよう応援させていただきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

簡単にコンチネンタル航空とはどんな会社なのか、また私自身どういう人間なのかお話をさせていただければと思います。

会社の説明の前にまずは、私の簡単な自己紹介をさせていただければと思います。フルネーム“坂井加奈子”と申します。父親の実家は旧柴町にございまして今も祖母が一人で住んでおります。一年に私用で最低二回は三条の方に来まして、お墓は、本当こちらのすぐ近くにございますのでたまにちょこっと手を合わせて帰ることもあるのです。

生まれ自体は新潟の市内でございます。新潟市の紫竹の出身で、現在も両親と共に暮らしております。両親と母方の祖母とそして愛犬のジョン之介という雑種の犬と一緒に暮らしておりますが、高校は父親の仕事の関係で柏崎高校というところを卒業させていただき、その後新潟県を離れて、日本大学の国際関係学部で4年間一応一生懸命勉強したつもりでございます。学校以外の社会勉強の方が多かったのかなあと思うところもあるのですが…

卒業してから東京の会社で2ヶ月だけ仕事をしたことがあるのですが、いわゆる五月病というものになりまして、22歳の春にすぐに新潟に戻って、縁ありコンチネンタル航空の新潟グアム線の開港メンバーとして入社をし、現在に至っております。

現在、新潟営業所支店長として、仕事を日々させていただいておりますが、こちらスターティングメンバーとして新潟営業支店の入社をしてから、その後名古屋市内にございますコンチネンタル航空中部営業支店というところで、約2年間勤務をさせていただき、その後いわゆる“出戻り”という形で、新潟の方に戻ってまいりました。

コンチネンタル航空というものが、どういった会社なのかをご説明、お話をさせていただければと思

います。

コンチネンタル航空、名前の通り日本の会社ではございません。テキサス州、ヒューストンに本社を置きます、アメリカの航空会社でございます。若干大きい航空会社の一つでございます。私を含めて全社員約4万5千人が世界中におります。規模といたしましては、世界中にある航空会社の中でも第5位の航空会社でございます。昨今は原油価格の高騰ということで、新聞等々でも、航空会社再編も含めてコンチネンタル航空もどこかと合併するのではないかというニュースを、新潟日報さんでご覧になられた方もいらっしゃるかもしれませんが、今時点では独立した形でどこの会社とも合併せず、協力、協調関係を保ちながら、ユニークな経営理念を守っていくということで、しばらくは名前も変わることがなく進んでいくのではないかなと思っております。

ちょっと数字的なお話をさせていただきますと、アメリカ国内につきましては、144都市。そして新潟グアム線を始めといたします海外につきましては、なんと139都市へ毎日運航してございまして、約2千9百便以上の飛行機を毎日飛ばさせていただいております。何故、グアムと新潟を結ぶ航空会社がアメリカのヒューストンに本社を置いているのか、よく聞かれる質問ですけれども、グアムというのは、意外と知られていないのがアメリカの準州、いわゆるアメリカのテリトリリーの中なのです。皆様にとっては三条から一番近いアメリカがグアムだということを是非皆様の頭の隅に置いておいていただければと思うのです。

もともとはコンチネンタルミクロネシア航空という航空会社がグアムを中心として日本をはじめ各国を結ぶ航路を持ってございまして、その100%出資の航空会社がコンチネンタル航空ということなのです。ヒューストンと結ぶ航路につきましては、成田空港から毎日ヒューストン線というものがございまして、あわせてニューヨークの方にも成田空港の方から直行便を毎日運航させていただいております。コンチネンタル航空の中で主要空港と呼ばれる我々は“have airport”と呼んでございまして、こちらは今申し上げましたヒューストンがございまして、本社がございましてヒューストン、そしてニューヨーク。3つ大きな“airport”がございまして、その中でもニュージャージー州にございましてニューアーク空港、そしてもう一つは国際路線としては日本とは直行便がない関係でなじみは少ないかもしれませんが、北部にございますオハイオ州のクリーブランド、そして新潟から直行便を運航してございましてグアム、こちらがコンチネンタル航空の主要空港としてございまして、ニューヨークに関しましては、ニュー

ヨークヤンキースの“official airline”を務めさせて
いただいております。松井さんは、日本航空さんと
個人的にスポンサー契約をされておりますので、個
人的に日本に帰ってこられる時はJAL日本航空さん
でお戻りになりますがニューヨークヤンキースとし
てのご渡航になりますと必ずコンチネンタル航空で
ということになりますので、もし試合を観られる機
会がございましたら“コンチネンタル航空 official airline”
ということで目にしていただける機会もあろうこと
かと思えます。

新潟グアム線の搭乗者数、搭乗率を上げるという
ことが私新潟営業支店支店長としての務めでござい
ます。新潟グアム線に等価した話の前に最後に一つ
だけ、コンチネンタル航空というのは非常にユニークな
経営理念を持っております会社でございます。コンチネンタル航空が自分の社会人人生の中のほと
んどを占めるわけなのですが、この業務に邁進して
これたのも非常にユニークな経営理念があったから
ではないでしょうか。その中でも面白い経営理念を
少しお話させていただければと思います。

コンチネンタル航空の約4万5千の社員一人一人が、
同じモットーを持って毎日の業務にあたっております。
それをひとまとめにして申しあげると“Go for
a plan”日本語でいうと“前に進む計画”というこ
とです。とにかく過去を振り返るといことは分析
としてしますが、あくまでも前に未来に向かって毎日
を過ごしていき、“on time performance”飛行機
を必ず時間通りに運航できるよう努力をし、かつ安全
に清潔な飛行機でお客様を目的地までお届けする
というこの目標を全社員が持っているのです。

この会社の経営理念が我々のような末端の人間に
まで細部に渡り行き届いている、こちらはコンチネ
ンタル航空の非常にユニークな経営理念の一つでは
ないでしょうか。

その“Go for a plan”なんです、まずはマーケ
ングプラン、これからどういった方向でコンチネン
タル航空が発展していくべきなのか、発展をさせな
ければならないのかというところで“Flies to win”、
勝つために飛ぶ、勝つために運航させるという、日
本語で言うとかグレッシブ過ぎ積極的すぎるように
聞こえるかもしれませんが、とにかく前を向いて
“Flies to win”、勝つために飛ぶ。

そして財政プランとして“Found the future”、将
来に対して備えを行うということです。どんなに勝
つために飛ぶと言っても、先立つ物がなければ
なにもできません。そういった意味で現在原油価格
の高騰は苦しい状況ではありますが、それも将来に

対して備えをするというところで、いろんな経営
のしょうさいがございます。

次に航空会社にとっての「プロダクト」とは何か
と申しますと、いわゆる機内でのサービス、そして
空港でのファシリティです。コンチネンタル航空が、
どんなに飛行機を時間通りに飛ばして、清潔な飛行
機で、お客様を目的地にお届けしたとしても、空港
があまり良くなかったり、また、関連するところの
保安検査等々のご協力がなければ何も生まれてきま
せん。これらが私共が常に考えております「プロダ
クトプラン」です。

そして最後に、これだけは是非お話して帰りたい
ことなんですが、「ワーキングトユゲザー」、こち
らは「従業員プラン」、みんなと一緒に働くという
ことです。会長だから、社長だからは一切うちの会社
では関係ありません。まあアメリカという文化です
から、社長と呼ぶことも少ないのですが。

日本支社長はチャールズ・ダンカンというジョー
ジア州出身の、私より年齢が1つ上の人で、世界
の中でも最も若い支社長です。それから、ヒュースト
ンの本社にいてアジア太平洋地区を統括しておりま
すのがマーク・アービンという副社長です。そして我々
の大ボスが最高経営責任者、ラリー・ケルナーとい
います。

私はヒューストンの本社で会長に会っても、彼の
ことを「ラリー」と呼んでいます。そして彼も、私
のことを「カナコ」と呼びます。

それぞれの立場でやらなければならない事はもち
ろんありますが、頭部から末端まで、みんなが同じ
目標に向って業務に励むということが「従業員プラン」
「ワーキングトユゲザー」ということで、少しユニ
ークな経営性を持っているのかなと思ってお話させて
いただきました。

また、皆さまにお配りさせていただいた資料の中
には、コンチネンタル航空「新潟—グアム便」就航
10周年記念セレモニーの新潟日報さんの新聞記事の
コピー等を入れてありますので、あとで目を通して
いただけたらと思います。

1998年の7月2日、「新潟—グアム直行便定期路線」
としてスタートいたしましたから、おかげさまで10
周年を迎えさせていただきました。

また、この私もコンチネンタル航空に入社して10
年となりました。この大きな節目の7月に、今回三
条ロータリークラブさんでこのように卓話をさせて
いただきますことは、私にとってたいへん光栄なこ
とでありますし、一生の思い出として残ることでは
ないかなと思っております。

次に、私の仕事の内容についてお話をしたいと思っています。航空会社に勤めていますというと、たいてい客室乗務員、いわゆるスチュワーデスと間違えられますが、私の仕事は、航空座席をお客様に売らせていただくこと、旅行会社さんと契約を結ばせていただくこととございます。

ですから、私の仕事の内容は、団体旅行、個人旅行、パッケージツアー、募集型企画旅行等々、コンチネンタル航空の「新潟ーグアム線」を利用した、魅力ある旅行プランをご提案させていただいて、その旅行商品をいかに気持ち良く旅行会社さんに売っていただくかということになります。そして、お客様にとって、魅力ある旅行商品を提示させていただいて、1名でも多くのお客様にご利用いただくことが私の仕事でございます。

最後になりますが、このコンチネンタル航空「新潟ーグアム線」は唯一、真南に向けた国際航空路線でございます。新潟にとって重要な路線としてお考えいただき、また、そう思っただけのよう、新潟から3時間半で行けるグアムの魅力を、これからもいろんな機会を通じて皆さま方にPRをさせていただき、皆さま方に愛される航空会社を目指して行きたいと思っております。

本日はご清聴、誠にありがとうございました。

次週例会 8月13日 クラブ休会

次々週例会 8月20日 外部卓話 三条市国体推進室
室長 堤 孝昭 様

